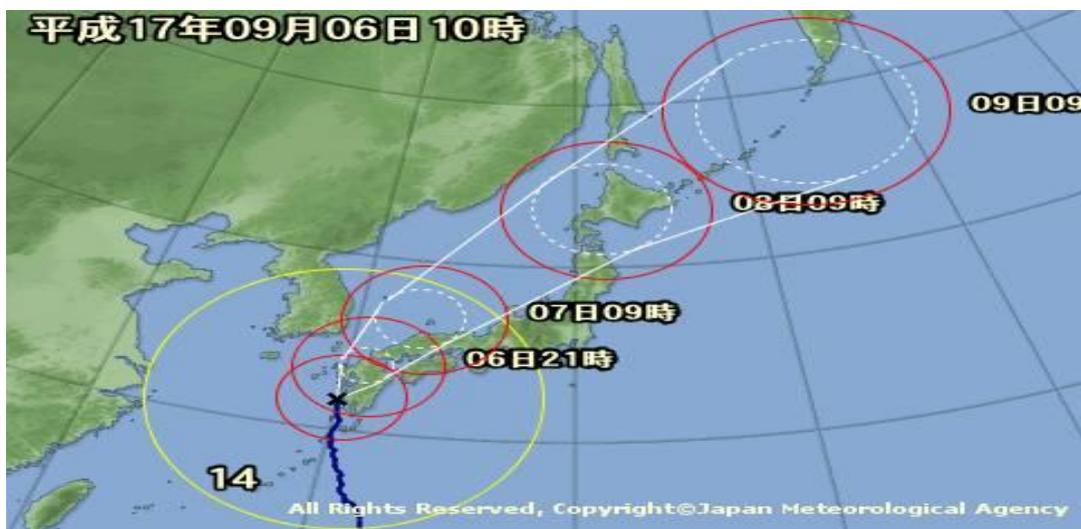


《在鳴門》2011年9月 第72期

一、また台風か（9月20日）



鳴門に来てからはや4か月、昨日、台風15号が経過しました。青島でも、毎年何回も台風を経験しましたが、鳴門ほどではないです。これほどの台風を経験したことがない僕は最初、雨の日でも、自転車に乗って通勤していました。しかしレインコートを着ても、ズボンや靴は濡れてしまいました。さらに、暴風雨の中、汗をいっぱいかいて、常に風邪気味でした。そのため最初以外のほぼ毎回、課内の同僚による熱心な送迎に助けられ、お世話になるばかりで気がすみませんでした。台風の日、宿舎で休むよう心がけ、わざわざ苦労することもなく、また同僚にもご迷惑をかけないようにしました。

台風は、深夜に強くなりました。暴風雨に伴って、窓のガラスが勢いよく響きました。ニュースによると、40m/sの風速で、もし小石が吹かれてガラスを撃ったら、ガラスが割れてしまう恐れがありました。だから、僕は布団に寝ながら、小石による被害をとても心配しました。幸いそんな被害には遭いませんでした。それは、窓外の50cm幅の金属板の効き目なんだと思います。この板は室内を遮断し、台風により飛んでくる小石をも防いでくれるからです。

台風による大雨で川がよく氾濫し、洪水によって起こされた土砂災害がしょっちゅう人身被害を出しました。徳島県内、特に山の地域の美馬市、三好市ではよく土砂災害が起きました。台風が来ると、非難公告を出さなければいけない鳴門市は大変です。しかし、鳴門市はSKY LINE付近の山がある程度守り、市内は平原であり、市内の撫養川、中山谷川などの河川も放流作用があるから、雨水が溜まりにくく、土砂災害も発生しにくいので太平洋沿岸であっても、比較的安全です。

二、歌手と福島っ子

9月8日朝、あるテレビ番組を見ました。報道されたのは、人気歌手の長渕剛さんが福島っ子を故郷の鹿児島に招待するという企画です。海の上で、彼は子供たちとジェットバイクに乗って、思う存分に遊んだり、無人島へピクニックに行ったり、釣りをしたり、一週間中、福島っ子らは悲しいことを忘れ、大笑いして過ごしました。

送別会の日、長渕さんはギターを弾いて、子供たちに歌を歌いました。歌の名は《Hold Your Last Chance》でした。

傷つき 打ちのめされても
はいあがる力が欲しい
人は皆弱虫を 背負って生きている
にがい涙を かじっても
ほほえむ優しさが欲しい
君が愛にしがみつくより
先ずは 君が強くなれ

さしのべる思いやりが欲しい
人は皆淋しさを 背負って生きている
頬を突き刺す怖さがあっても
立ち向かう勇気が欲しい
曲がりくねった迷路で
真実の自分を探すんだ

Hold Your Last Chance
こて先ではがれ落ちる美しさより
Hold Your Last Chance
ひとつぶの汗の方がいい
二度と走れぬ 坂道を上ったら
Hold Your Last Chance
誰かが人生でつまづいたら

Hold Your Last Chance
テーブルに飾られたバラより
Hold Your Last Chance
野に咲くれんげ草の方がいい
二度と走れぬ坂道を上ったら
Hold Your Last Chance
Hold Your Last Chance

子供たちは、歌を聞きながら、泣き始めました。長渕さんは「今回この旅で出会えた大人たちは素晴らしかった。それはなぜか分かるかい？君たちが素晴らしいからだ。泣くな、泣くな、最後のチャンスをつかめ！君たちが一生懸命声を出してくれたり遊ぶ姿を見て、子供の頃を思い出した。そして、二人で手をつなぎ、しあわせになろうよ」と話しました。

その歌っている歌手と泣いている子供たちを見て、僕も涙が出た。。。。。

三、網引きの一日体験



9月11日、徳島市国際交流協会が主催した「網引きの一日体験」に参加しました。バス代と食事代が1人3000円(外国人2000円)、阿南市北の脇海水浴場で行いました。10時半、徳島市を出発し、午後12時に到着しました。岸から50メートル海上、二隻の漁船が網を撒きました。そして、皆、両列に分けて、一緒に網を引き始めました。ようやく、網を引きあげ、魚がどのぐらい獲れるか、皆ドキドキでした。

網中に魚が必死に跳び、子供たちは興奮しました。大人も嬉しかったようで皆、笑顔でした。地場職員に手伝ってもらい、魚をバケツに入れて、少なくとも25キロはあったかと思えます。

炭を燃やし、バーベキューの金属網をかけ、女性のご飯を作り、男性はバーベキューを担当しました。小さい魚を直接焼き、大きい魚とアナゴは捌いて醤油をつけて焼き、おいしそうな香りが鼻をつきました。金時やカボチャやキャベツも焼いたが、野菜はやはり炒める方がおいしいと思えました。参加者中には、三人家族も、夫婦2人も、友達と一緒に来たのも、皆で食べながら、話をし、楽しかったです。

このような“網引き一日体験”は、地場漁業を活かし、漁民は収益を取る一方、市民は新鮮な体験を味わう、真にいい経営だと思います。青島の漁業資源も豊富だから、この経営方法を利用できればいいかなあ。

四、車社会実況

鳴門市役所にある公用車の大部分は普通車であり、高級車は少ないです。市長、議長には専属車があるものの、他の職員には専属車がありません。商工観光課には職員16人(臨時職員含め)、公用車は2台、仕事で外出する職員は自分で公用車を運転し、戻った後、公用車記録簿に油量と距離を記入します。時々、私用車を公務のために使いますが、ガソリン手当てはなく自腹です。日本は、19世紀70年代、自動車社会に入って、国民は18歳から80歳までほとんど免許を持っており、すべての世代は自動車を持っています。また近年、市場ではオートマの車がマニュアルの車を上回りました。オートマの方は操縦が簡単で、オートマ車

は男性より体力弱い女性でもうまく運転できます。



一方、青島市役所には、專業運転手の職員が公用車を運転し、車種がオートマとマニュアルの二種類、排気量はほとんどが2L以上、中米や中ドイツ合資生産の高級車のBUICK、AUDIです。税金を贅沢に費やしていると思います。中国では、日本ほどの自動車社会にはまだ達しておらず、公務員の中でも多くの方がいまだ免許を持っていません。なぜかといえば、購入、点検、ガソリンに高い費用がかかり、自動車はまだ贅沢物であるからです。だが、青島市内では、毎日新車が数百台のスピードで増えています。

徳島市内は、駐車費用が高いです。少数の駐車場は200円だが、他には大抵一時間400-500円で、もっと高いものもあります。勿論、料理店やホテルなどでは無料駐車場も整備しています。スーパーや百貨店はレシートを持てば一定時間に無料駐車できます。

また自動駐車場も多いです。それに対して青島市内には駐車場が足りなくて、路肩では違法駐車が時々見えます。

商工課の職員方々は、ほとんど車で通勤されていますが、市内に住む人は晴れたときは普段自転車で通勤し、雨天の場合でさえ自動車に乗ります。だから、晴れの日には、駐輪場に自転車がいっぱい、雨の日には、よく空いています。

東京や大阪など大都市は、人口密集で、バスや電車や地下鉄など公共交通施設が便利です。市民は外出に普段公共交通を利用します。しかし、地方の小規模の市や農村地域には、住民が分散し、公共交通運営コストが高くて、バスが少ない（鳴門市内バスは一時間に1本だけ）、そして、市民たちは外出にほとんど自動車に乗りますが、収入を考えると、中国より日本が車とガソリンの負担が少ないです。

	鳴門	青島	比率
ガソリン (レギュラ)	130 円/L	7. 50 元/L	1.4: 1

(※1元=12円)

五、日常の家計

日本の農産物の高価さには、日本に来たばかりの中国人の誰でもびっくりです。日本は平均収入が高く、物価に比べて、一般の世代の家計は中国との格差が少ないと思います。それに加え、日本の住宅、医療、教育、交通環境は中国のそれよりも良いです。公的サービスにも良く、全面に鑑みるとやはり日本人の暮らしの質が良いと思います。

スーパーには、野菜、青果、魚、肉、卵と米を全部包装して販売するので、お客さんにとって便利です。下記のように、粗略的に、鳴門市内スーパーの主な食品価格と青島のと比較します（格差大きいのを斜体字形になる）：

種目	鳴門	青島	対比值
米	400 円/kg	5 元/kg (东北大米)	7: 1
食用豆油	500 円/kg	10 元/kg	4: 1
食用塩	150 円/kg	2 元/kg	6:1

砂糖	400 円/kg	8 元/kg	4:1
卵	300 円/kg	9 元/ kg	3: 1
豚肉	1000 円/kg(日本産) 700 円/kg(アメリカ産)	29 元/kg	3:1 2:1
鶏肉	1000 円/kg	20 元/kg	4:1
イワシ	400 円/kg	16 元/kg	2:1
蛤	500 円/kg	20 元/kg	2:1
唐からし	800 円/kg	5 元/kg	11:1
セロリ	700 円/kg	4 元/kg	11:1
トマト	600 円/kg	5 元/kg	10:1
きゅうり	600 円/kg	5 元/kg	10:1
ねぎ	600 円/kg	4 元/kg	12: 1
いも	400 円/kg	4 元/kg	8: 1
白菜	200 円/kg	2 元/kg	8:1
りんご	100 円/個	2 元/個	4: 1
みかん	400 円/kg(日本産) 200 円/kg(南アフリカ産)	4 元/kg	8:1 4: 1

料理店

焼肉	300 円/皿	2 元/皿	10: 1
ラーメン	800 円/杯	8 元/杯	8: 1
生ビール	400 円/杯	3 元/杯	10: 1

日常家計

項目	鳴門	青島	対比值
電気代	2000 円/人/月.	80 元/人/月	2: 1

水道代	500 円/人/月	20 元/人/月	2: 1
ガス代	2500 円/人/月	40 元/人/月	5: 1
テレビ代	30000 円/年	260 元/年	9: 1
インターネット代	4000 円/月	100 元/月	2.8: 1
携帯料金	2000 円/人/月	80 元/月	2: 1
散髪料金	1500 円/次	10 元/次	10: 1
平社員月給	15 万円/月	2000 元/月	6: 1

上表を見て、日本では野菜が非常に高いことがわかります。青島の10倍以上にもなり、主食の米も高く、料理店の消費はより高いです。サラリーマンは外食するとき、おごる場合が少ないのは、ほとんどが割り勘です。理由のひとつとして外食料金が高いことにあるからなのだろうと思います。主婦の方々も買い物するときは値引きされている場合がより好きです。

水道代や電気代は収入のわりに安く、他のは大抵妥当だと思います。つまり、日本では農業とサービス業の労働価値が高いです。鳴門市は、サービス業就職人数は就労人数の60%を占め、建築業、製造業、運輸業はおよそ38.5%、農林水産業就労人数わずか1.5%。農民人口が少なくても、収入は低くない、それは高い農産物の価格のよるのに間違いありません。サービス業の発達も高いサービス報酬によるものなのだろうと思います。たとえば、散髪料金の価格を見れば手作業の報酬がいかに高いか分かります。日本には、料理店、スーパーにバイトの平均時給は800円/時間、一日8時間すると、月給が少なくとも10万円台(人民元約8000元)、それに対して、中国では同じ仕事で月給1000-1500元くらいになります。さらにいえば日本のように時給により計算することは中国では珍しいです。

現在、中国には農産物はじめ、食料品の価格は高騰しています。一つの原因は、インフレと関係し、もう一つのは市場による見えざる手効果だと思います。商品と労働の価値は市場経済環境中にいかに実際の価値を表しているのか、それを正確に知ることや、政策と人が操ることは難しいことだと思います。